

民主主義のあり方を追究する 中学校社会科歴史授業開発 —「輿論」と「世論」の違いの探究を通じて—

長田 健一 (初等教育学科)

A Development of Junior High School History Classes for Re-examining Democracy: An Inquiry into the Difference between “Yoron” and “Seron”

Kenichi NAGATA (Department of Elementary Education)

抄 録

本研究の目的は、「世論に従うのが民主主義」「民主主義は多数決」といった現代の素朴で固定的な民主主義観を生徒たちが見直し、今後のより良い民主主義のあり方を追究することができるようになるには、どのような論理によって授業を構成すべきか、また、それに基づくと、どのような授業が考えられるかを明らかにすることである。その概要は、以下の点に要約される。

第一に、単元・授業の構成の論理としては、「理性」と「感情」を民主主義理解のためのキー概念として選択し、さらにこれらの概念を具体的に考えられるようになるための教材として「輿論（ヨロン）」と「世論（セロン）」の二つの言葉を用いる。

第二に、「輿論」と「世論」の概念上の相違と歴史的変遷に関する探究を単元の主な学習過程とし、その中で得られた知識を議論に活用することで、今後の民主主義のあり方を生徒たちが批判的に追究できるようにする。

以上の二点に基づき、単元構成と、単元の結びとなる授業の学習指導案を作成した。

キーワード：熟議民主主義、歴史教育、世論、理性、感情